広陵町教育委員会だより

令和７年度　　１月号　　１月９日発行
広陵町教育委員会
北葛城郡広陵町笠161番地２
TEL0745－43－6180　文責・編集　植村

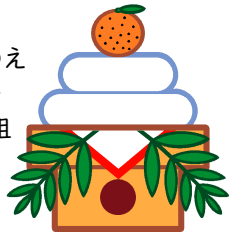
正月（むつき）立つ　春の初めに　かくしつつ
相（あひ）し笑みてば　時じけめやも

万葉集　巻18－4137　大伴家持

正月、めでたい春の初めに、このようにお互いに笑みを交わしているのは、まことに時宜をえた結構なことでありますなぁ。

「丙午（ひのえうま）」にあたる今年を炎が照らす、挑戦と飛躍の年に!

令和8年（2026）年の輝かしき新年が明けて、9日が経ちました。昨年は、学校教育、子育て支援、生涯学習、スポーツ振興、文化財保存、図書館活動等の教育委員会における諸事業や様々な活動に、ご理解とご協力、そしてご支援を賜りましたことに心より厚くお礼申し上げます。今年も、昨年にも増してよろしくお願いいたします。



令和8（2026年）の干支は、丙午（ひのえうま）で十干（じっかん＝甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸）の丙と、十二支の午の組み合わせで60年に一度巡っています。
ただ他の午年と何が違うのでしょうか。
「丙午の年は火事が多い」「丙午生まれの女性は気性が激しい」「男を食い殺す」など、信じ難い迷信がまことしやかにささやかれ続けてきました。なぜそんなことが言われてきたのか知りたくて、調べてみました。

この迷信は、井原西鶴『好色五人女』（1686）にも描かれた八百屋お七の言い伝えに基づくものだということです。

「天知の大火」（1682）で焼け出された八百屋の娘であるお七が、避難先の寺で出会った青年と恋に落ち、再び火事になればその青年と再会できると考え、翌年、自宅に火を放ち、その罪で市中引き回しのうえ、火あぶりの刑に処せられたそうです。このお七が1666年の丙午生まれということが迷信に結びついたとされています。ただ、そこから300年を経た1966年の昭和の丙午の出生数が136万974人（前年比で約46万3000人減）と、統計を取り始めた明治以降で最低の数を記録しています。しかし、60年も経った今年は、そのような迷信も信じられなくなっていると思います。

2026年の今年は、丙午（ひのえうま）の気が強く働く一年となり、勢い・情熱・決断力が前面に出る運勢で、物事が活発化しやすく、自分の中に眠っていた意欲が一気に湧き上がるような場面も増えるらしいです。これまで「いつかやりたい」と思いながら先送りにしていたことや諦めかけていた夢、挑戦したいけれど踏み出せなかったことなど、そうした心の奥に眠っていた想いが、丙午の炎に照らされて、一気に動き出す年だそうです。

ただ、重要なことは「動くこと」で、丙午のエネルギーは、待っているだけでは活かせないらしく、自ら一歩を踏み出し、行動することで、初めてそのパワーを味方につけることができるようです。とにかく、これまでの迷信は気にせず、炎が照らす、挑戦と飛躍の年にしてもらえればと思います。

教育委員会関係団体の取組

第２回こども会議を開催！

12月19日(金)午後2時から、小中学校の児童会・生徒会等の学校代表の子どもたちが集まり、中央公民館の大会議室で今年度2回目の子ども会議を開催しました。前回の会議では、テーマの「笑顔あふれる学校、笑顔あふれる広陵町」にするために、①学校のみんなで行おうと考えたこと、進み具合、②課題となっていること、なやんでいることについて、それぞれの学校から発表してもらいました。今回は、テーマに基づいた**①第１回こども会議に参加し、その後行ってきた取組について、②広陵町から発信できることについて**、各学校の取組を3～5分程度でスライドを使って発表してくれました。その後、それぞれの発表を聴いた中で、他の学校の良かった意見やアイデアを基に4つのグループに分かれて意見交流し、最後に一番良いものをリーダーが発表するという内容でした。司会進行は、真美ケ丘中学校が担当してくれました。

取組の発表　①は第1回会議後に行ってきた取組
②は広陵町から発信できるもの

※　発表内容は、要約したものを記します。

東小学校

①「スローガン・合い言葉」「福祉・車いす体験」「不要なタオルをぞうきんに」
②「校区内そして町内、町外へといろいろな方とつながっていく」

西小学校

①「時計台公園（ピエロ公園）をきれいにするため、まずはゴミ拾いをする。」
②「まずは自分の住んでいる町の公園を大切にしたい。」

北小学校

①「あいさつ運動」「人権コーナー」「くすのき学習発表会」
②「なす・いちご・くつ下の活用と発信」「平和への思いを世界に広げる。」

真美ケ丘第一小学校

①「たてわり活動として、たてわり掃除や異学年とのひまわり集会、まみっこタイムで活動する。」
②「なすびの皮で染めたくつ下を全国、世界に発信する。」

真美ケ丘第二小学校

①「あいさつ運動（スマイル運動）」「SDGs運動の一つとして給食の残食を減らす。」
②「広陵町の古墳巡りツアー」「広陵町の特産を広める。」「くつ下産業をPR」

裏面へ

広陵中学校

①「あいさつ運動」「赤い羽根募金」「給食の残食を減らす取組（給食準備ランキング、勝手に食べリンピック1年生）」

②「ベルマーク活動を活用して、学校をもっと過ごしやすいものに」

真美ケ丘中学校

①「生徒会内で地域の清掃活動、生徒会で広報活動」

②「百済寺、牧野古墳、巣山古墳の歴史」「くつ下づくりやくつ下の魅力」「馬見丘陵公園や竹取公園を中心としたイベント」

各学校の発表は、テーマである「笑顔あふれる学校、笑顔あふれる広陵町」にするために、子どもたち一人一人の意見を反映したもので、どの学校も現在進行形で取組を進めている、内容のあるすばらしい発表でした。

発表の後は、各学校入り交じっての4つのグループで一番良いと思われるものを話し合い、それぞれの中学生のリーダーに発表してもらいました。以下は要約したものです。

Ａ班　真美二小のスマイル運動におけるスマイルカードを使った取組と真美中が提案した文化財、くつ下づくりやくつ下の魅力をSNS映えする発信。

Ｂ班　真美一小のナスの皮で染めたくつ下の試作品に感激した。また、イチゴのへたで染めることはどうか。

Ｃ班　真美一小のナスの皮で染めたくつ下の取組が良かった。一度で染めることができる工場の設置はどうか。

Ｄ班　環境を良くする広陵中の残食を減らす取組が良かった。また、真美一小のナスの皮で染めたくつ下の取組とその取組をSNSで世界に発信してはどうか。

その後、参加している人たちから、今回の会議で特に印象に残った各校の取組についての感想や新たな提案もしてもらいました。

最後に私のあいさつでは、「『笑顔あふれる学校、笑顔あふれる広陵町』にするために、昨年から各学校で取り組んでもらっている取組を発表してもらってありがとうございました。本当にすばらしい発表でした。それぞれの取組が学校を明るく元気にするとともに、みんなが和気あいあいと楽しい学校生活を送ってもらっていることに感謝します。前回に課題として提案した広陵町から全国や世界に向けてのグローバルな取組の発信では、真美中の町文化財のSNS映えの発信や真美一小のナスの皮で染めたくつ下の取組、広陵中のSDGsの取組の一つである残食を減らす取組が心に残りました。特に、給食の残食については、来年1月から給食費の無償化が実施されますが、その財源は町民の皆さんからの税金で賄われますので、広陵中の取組だけでなく、他の学校も残食を少なくする取組をお願いします。それとともに、皆さんの学校や広陵町を良くしたいという要望については、児童会や生徒会にどんどん提案してもらって、教育委員会としてもできることは、少しでも早く手をつけ、実現したいです。」と子どもたちの熱い想いを全身で受け止めての話をさせていただきました。

第67回広陵町マラソン大会を開催！

12月14日(日)に、第67回広陵町マラソン大会を広陵中学校において開催しました。前日から雨の心配がありましたが、朝から曇りのマラソンには支障のない天候となりました。今年は174人の参加者で、これまでの練習の成果を精一杯発揮しようと集まっていただきました。

今回は、男女とも16歳以上Aの部として5㎞、16歳以上Bの部として3㎞、中学生男女の部3㎞、小学生男女5･6年生の部2㎞、小学生男女4年生以下の部2㎞と親子で走ってもらうちびっ子マラソン800mを種目に設定しての大会でした。

開会式では、吉村町長をはじめ、スポーツ協会の増田会長、谷議長に、大会に臨む心構えと持っている力を精一杯発揮してほしいという熱いエールとともに、力強いあいさつをしてくださいました。

ちびっ子マラソンのスタート

この大会には、大和広陵高校の皆さんがスタッフとして計時やゴールの順位確認などの業務に協力していただきました。

10時のちびっ子マラソンのスタートを皮切りに、大会が始まりました。お父さんやお母さんと一緒になって走る姿はとても微笑ましく、手を引っ張ってもらって走る子たちや親御さんを振り切って前をどんどん走る子たちに大きな声援が送られていました。

このちびっ子マラソンでは、吉村町長もしんがりを務められ、最後の親子に声援を送りながら走っていただきました。

その後各部ごとに競技は進み、最後は第21回市町村対抗子ども駅伝の選手選考を兼ねた5･6年生男女のレースがスタートし、家族などの声援を励みに、持てる力を思う存分発揮して、それぞれがすばらしい走りを見せてくれました。小学生5･6年生男女上位4名の子どもたちは、3月7日(土)に橿原運動公園で開催される駅伝大会に、広陵町代表選手として出場します。（1月10日から毎週土曜日9時から大会に向けて練習がスタートします。）

今月の一言

高い志と熱意を持ち、少数だけでなく、より多くの人々との共感を持てれば、どんなに弱い者でも事を成し遂げることができるでしょう。　津田梅子

（日本の教育者、日本女子教育の先駆者　1864～1929）

現在の津田塾大学を設立し、日本女子教育の先駆者と称されています。

この言葉は、共感と協力の重要性を強調し、個人の能力を超えた影響力を信じることの重要性を示しています。